

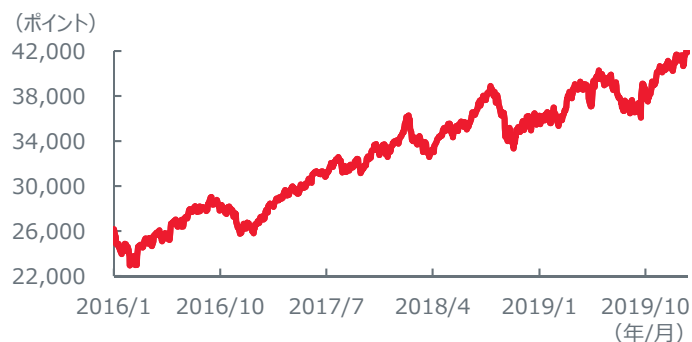
India Weekly

2020年1月20日



(対象期間：2020/1/13～2020/1/17)

【株式市場】SENSEX指数の推移 (2016年1月1日～2020年1月17日)



【株式市場】

10日の取引時間終了後に2019年10-12月期の決算を発表した大手IT企業の純利益が市場予想を上回ったことが好感されて、週初のインド株式市場は上昇しました。その後、一時利益確定売りに押される場面もありましたが、米中が貿易交渉の第一段階の合意文書に署名したことで良好な投資家心理となる中で、週を通じて概ね堅調に推移しました。週内に主要な株式指数であるSENSEX指数、NIFTY指数ともに過去最高値を更新しました。

2020/1/10	2020/1/17	変化率
41,599.72	41,945.37	+0.83%

【債券市場】インド自国通貨建て10年国債利回りの推移 (2016年1月1日～2020年1月17日)



【債券市場】

13日の取引時間終了後に発表された12月の消費者物価指数(CPI)上昇率が市場予想を上回り、インド準備銀行(中央銀行、RBI)のインフレターゲット(4±2%)の上限を上回ったことを受けて、14日にインド10年国債利回りは大きく上昇(価格は下落)しました。その後はRBIが追加のオペレーションツイスト*の発表を行うとの期待が支援材料となって(実際に16日に、翌週実施することを発表)10年国債利回りは低下しましたが、週間では利回り上昇となりました。

2020/1/10	2020/1/17	変化幅
6.588	6.626	+0.038

【為替市場】インドルピーの対円レートの推移 (2016年1月1日～2020年1月17日)



【為替市場】

米中が貿易交渉の第一段階の合意文書に署名したほか、米国で良好な経済指標が発表されたことなどから米ドルを買う動きが強まり、ルピーは対米ドルで下落しました。円も対米ドルで下落し、円の下げ幅の方が大きかったことから、ルピーは対円では上昇しました。

2020/1/10	2020/1/17	変化率
1.545	1.549	+0.26%

*中央銀行が公開市場操作において、長期国債の買い(売り)オペと短期国債の売り(買い)オペを同時に行うことで、市場への資金供給量を一定に保ったまま、長短金利を逆の方向に動かす金融政策の手法の一つ。

出所：グラフおよび表はBloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

<当資料に関してご留意いただきたい事項> ※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル・グループ

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイ

ナンシャル社、および英国のM&Gの子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。